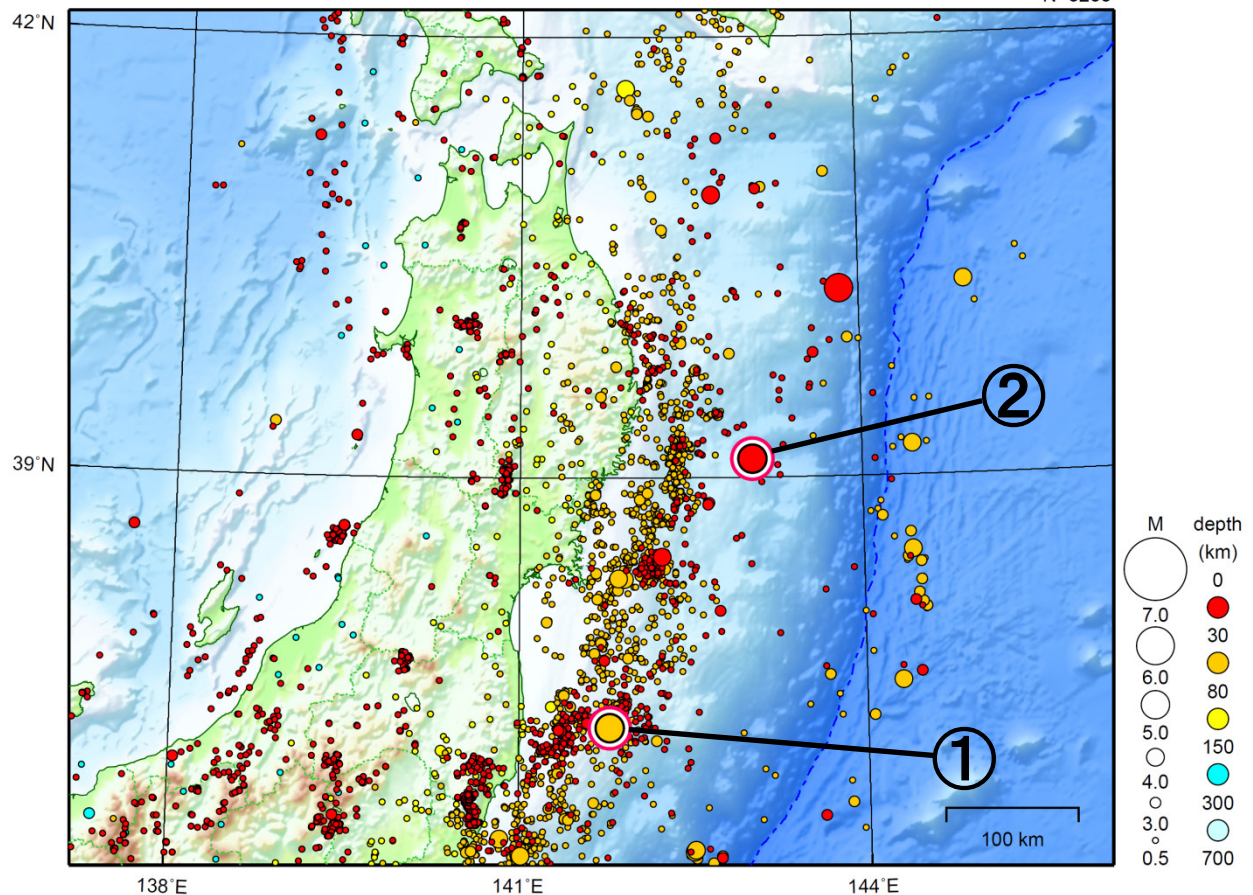


東北地方

2019/11/01 00:00 ~ 2019/11/30 24:00

N=3258



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

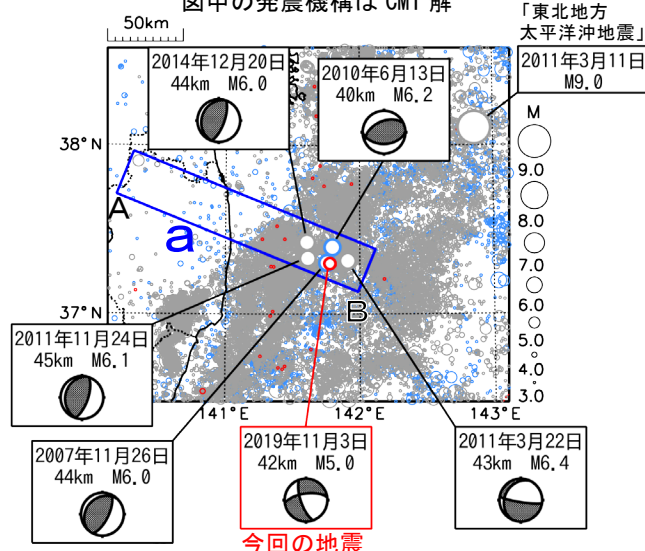
- ① 11月3日に福島県沖で M5.0 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ② 11月29日に三陸沖で M5.6 の地震（最大震度 3）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

11月3日 福島県沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2019年11月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 3.0$)
2011年3月10日以前の地震を○、
2011年3月11日以降の地震を○、
2019年11月1日以降の地震を●で表示
図中の発震機構はCMT解

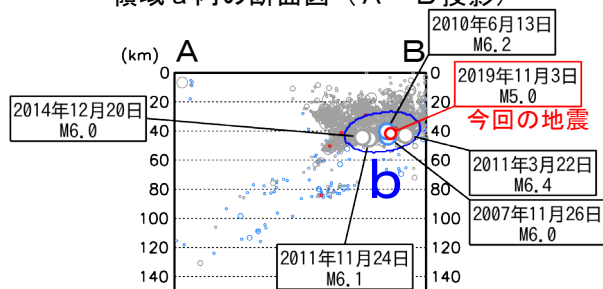


2019年11月3日14時02分に福島県沖の深さ42kmで $M 5.0$ の地震(最大震度3)が発生した。発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸をもつ横ずれ断層型である。

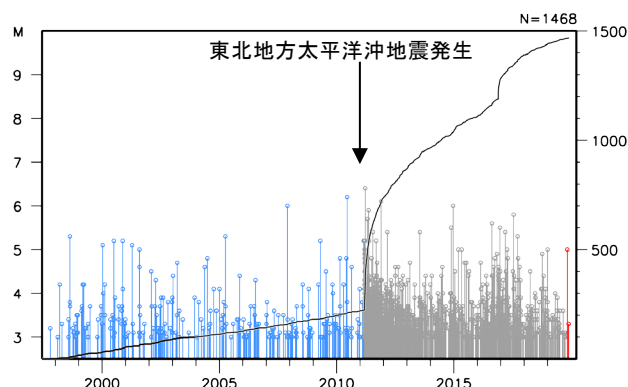
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 5.0$ を超える地震がしばしば発生している。また、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」と記す。)の発生以降は地震の発生数が増えている。

1922年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1938年11月5日17時43分に $M 7.5$ の地震(最大震度5)が発生した。この地震により、宮城県花巻で113cm(全振幅)の津波を観測した。この地震の後、福島県沖で地震活動が活発となり、同年11月30日までに $M 6.0$ 以上の地震が26回発生し、このうち7回は津波を観測した。これらの地震により、死者1人、負傷者9人、住家全壊4棟、半壊29棟などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

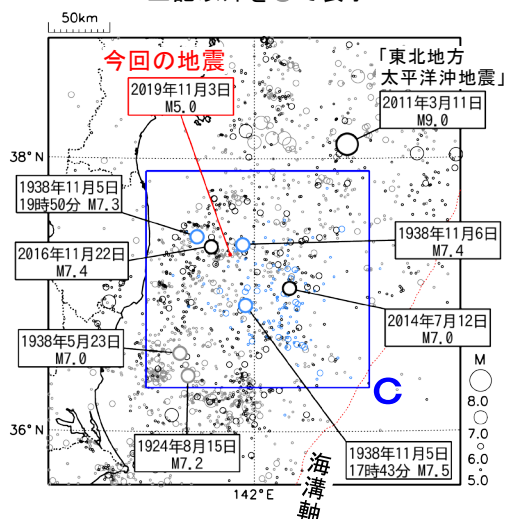
領域a内の断面図(A-B投影)



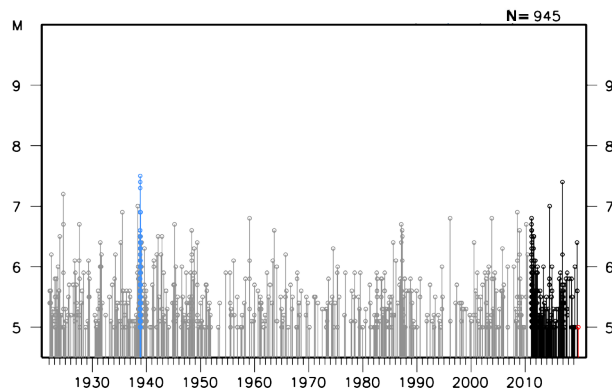
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1922年1月1日～2019年11月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)
1938年11月5日～11月30日の地震を○、
2011年3月11日以降の地震を○、
2019年11月1日以降の地震を●、
上記以外を○で表示

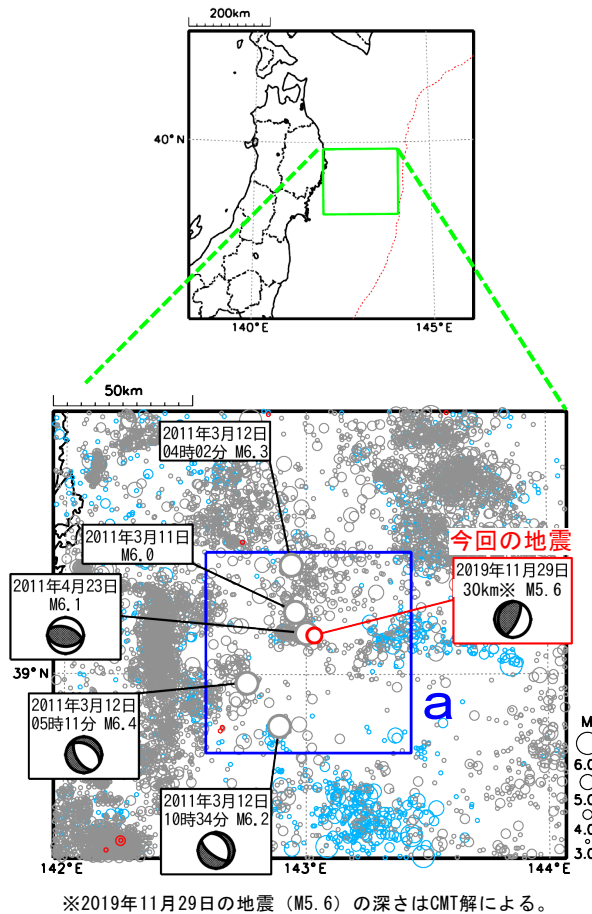


領域c内のM-T図



11月29日 三陸沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2019年11月30日、
深さ 0～100km、 $M \geq 3.0$)
2011年3月10日以前の地震を○、
2011年3月11日以降の地震を○、
2019年11月1日以降の地震を●で表示
図中の発震機構は CMT 解

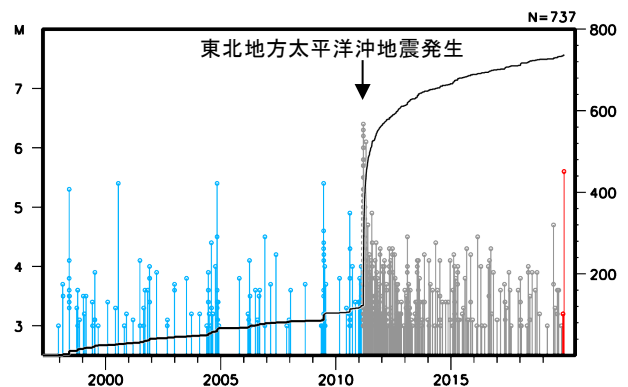


2019年11月29日13時01分に三陸沖の深さ30km (CMT解による) でM5.6の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が西北西－東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

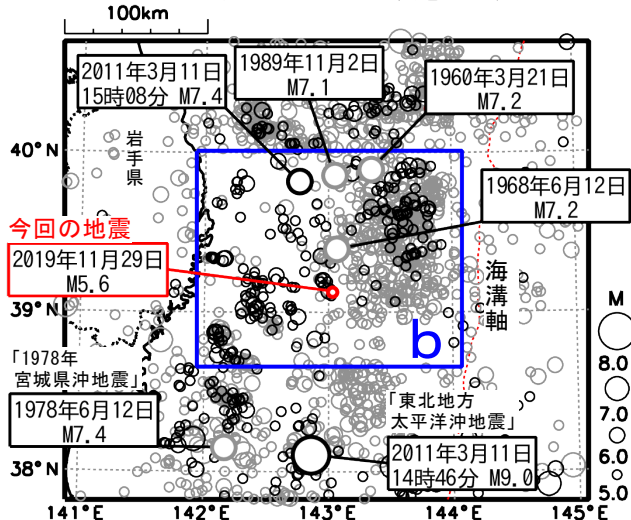
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域a) では、M5.0を超える地震が時々発生していたが、「東北地方太平洋沖地震」の発生直後、活動が活発化し、2011年4月までにM6.0以上の地震が5回発生している。2011年5月以降も「東北地方太平洋沖地震」の発生以前に比べて活発な活動が継続していたが、M5.0以上の地震が発生したのは、2011年4月以来である。

1922年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、M7.0以上の地震が時々発生している。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



震央分布図
(1922年1月1日～2019年11月30日、
深さ 0～150km、 $M \geq 5.0$)
2011年3月10日以前の地震を○、
2011年3月11日以降の地震を○、
2019年11月1日以降の地震を●で表示



領域 b 内の M-T 図

